



Wang Xue Ming

1950年5月中国生まれ

所属：中国広東省人民政府社会経済開発センター次長

アジ研でのテーマ：広東省の経済成長モデルと国際比較

一言：日本民族はその勤勉さで今日の日本を繁栄を築きました。

滞在期間：1994年10月～95年8月

成熟日本の持続的発展を願う

王 学明 (中国)

今、世界のさまざまな国の学生が日本へ留学しています。ここまで繁栄してきた日本の経済環境、あらゆる技術知識、繁栄方法を知らずにはいられません。

なぜ、日本はこれほどの経済発展を果たすことができたのか、全世界へ進出できたのか、私は日本に来て以来、この問題にずっと関心を持っています。日本での生活が短いので、この問題については十分に理解はしていません。しかし、その結論は、日本人は勤勉で器用、時間を惜しまず、常に努力する民族だからである、というものです。

では、これらの日本人気質は誰によって、また何によって作り上げられたのでしょうか。必ず原因があるはずで、独自文化をもつ日本民族の根源を解明できれば、日本人気質を日本人自らが知る事ができることにも、ひいては外国からの理解を得ることもできるでしょう。

国の環境はドイツと似ています。敗戦の時期も変わりません。しかし、復興は日本の方が早く成し遂げています。経済も数歩日本がリードしています。

世界の中でも日本人は最も勤務時間が長

いようです。多忙となるには必ず原因があります。なにかがそうさせているのです。

まず日本人の勤勉さの特徴として物を作り出す技術にたけていることがあげられます。物が作り出されると、新しいビジネス環境を生みます。日本は外資を稼げる資源はないに等しく、商品の生産を永遠に繰り返すことで稼いでいます。そのため、次から次へと製品を開発し国内へ出荷します。

メーカーは次の商品開発に追われます。小売店が商品知識を覚えたころに次の製品が届きます。このように多忙な状況が繰り返されるのです。そして国内需要が満たされると、外国への輸出となります。このような資源なき加工産業の国には、休む時間はほとんど意識しなにかぎり作れないのです。

日本人は仕事にせよ、あるいは余暇の過ごし方にせよ、絶えず向上を追求し、最善と最高のものを求める精神をもっています。例えば、普段の娯楽についても、日本人は学んですぐ覚えられるものに対しては、短期間に興味を失ってしまう傾向があります。しかし、奥行のある活動に対しては、長期にわたっても興味を保ち続けるものです。ボーリングのような技術的にはそ

れほど難しくないスポーツは、日本では一時期にブームを巻き起こしたものの、すぐ下火になりましたが、囲碁やゴルフのような技術が比較的難しいものは日本ではいつも盛んで多くの人々から好まれています。このような精神が生産技術に応用されたことで、日本の製品はいつも完璧で、世界各国の消費者の歓迎を受けたわけです。

成熟化した今の日本、物があふれる日本、飽食の日本、土地は買えないほど高い日本。これらが、若者、中堅社員のサブカル・ベンチャー意識をなくしています。また、これには企業の仕組みである年功序列制、そして住宅難も影響しています。しかし、逆の見方をすれば、このようなビジネスチャンスが多い時代ほど、夢ある人にはビジネスチャンスが増えてくるはずで、日本には優秀な人材が多いので、日本経済はひとつひとつ困難を克服していく中で、たゆまず前進し、経済の持続的発展を保持してきました。日本が今後もひきつづき順調に発展の道を歩まれるよう願っています。

(海外客員研究員)